

大学間国際ネットワーク事業への

www.apru.org

APRU アブル：
環太平洋大学協会
Association of Pacific Rim Universities



1997年発足。環太平洋地域の17カ国・地域の主要研究型大学45校が加盟する国際大学連合。環太平洋地域にとって重要な諸問題に対し、研究・教育の分野で協力・貢献することを目的とする。APEC(アジア太平洋経済協力会議)閣僚会議2012の共同声明において、域内の学生・研究者の交流の促進に重要な役割を果たす組織とされている。京都大学は2009年から日本を代表し4年間APRU理事を務め、2016年にはThe 12th APRU Multi-Hazards Symposiumを開催した。

加盟45大学

米国12校(カリフォルニア工科大学他)、オーストラリア4校(オーストラリア国立大学他)、カナダ1校(プリティッシュコロンビア大学)、チリ1校(チリ大学)、中国8校(復旦大学他)、台湾1校(国立台湾大学)、インドネシア1校(インドネシア大学)、日本6校、韓国3校(高麗大学他)、マレーシア1校(マラヤ大学)、メキシコ2校(メキシコ国立大学他)、ニュージーランド1校(オークランド大学)、フィリピン1校(フィリピン大学)、ロシア1校(極東連邦大学)、シンガポール1校(シンガポール国立大学)、タイ1校(チュラロンコン大学)

参加プログラム等

研究者・院生対象

Chief Information Officers Forum & Education and Research Technology Forum
Research Symposium on University Museums
Asia-Pacific Women in Leadership (APWiL) Workshop
Multi-Hazards Symposium

学生対象

Undergraduate Leaders Program
Doctoral Students Conference
Multi-Hazards Summer School



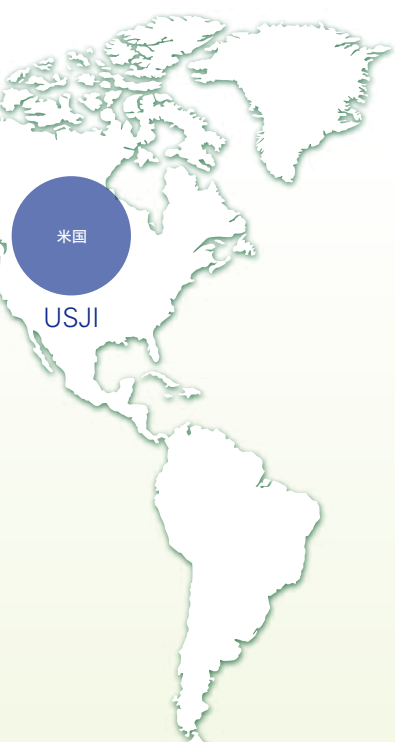
学長会議は大学のトップ同士の対話の場(2015 大阪)



APWiLワークショップ(京大東京オフィス)



博物館シンボでのポスターセッション(国立台湾大学)



www.hekksagon.net

HeKKSaGOn ヘキサゴン 日独6大学コンソーシアム
German-Japanese University Consortium



2010年、日独の計6大学が、両国の科学と知識の進歩向上を目指す学術交流を目的として設立。日独6大学学長会議、研究セッション、博士課程学生サマースクール等を開催。HeKKSaGOとは、6大学が所在する都市(Heidelberg, Kyoto, Karlsruhe, Sendai, Göttingen, Osaka)の頭文字等をとっている。本学は日本側幹事校として、ドイツ側幹事校ハイデルベルク大学との調整役を務め、2012年には第2回日独6大学学長会議を京都で主催した。

日独メンバー 6大学

京都大学、大阪大学、東北大学、ハイデルベルク大学、ゲッチンゲン大学、カールスルーエ工科大学

参加プログラム等

研究者対象

ワーキンググループによる研究セッション(学長会議同時開催)
2015年4月 第4回 東北大学
2016年9月 第5回 カールスルーエ工科大学

学生対象

博士課程学生サマースクール
ドイツインターンシップ
若手研究者・学生交流事業(受入・派遣)
Kyoto University Winter School 2016

ハイデルベルク大学との連携

2013年、本学の海外拠点の1つ、欧州拠点ハイデルベルクオフィスはハイデルベルク大学内に開所。2015年には本学内にハイデルベルク大学のサテライトオフィスが開所。双方がスタッフを現地に派遣し、今後も研究・教育の連携を強めていく。



ハイデルベルク大学のウインタースクール



ハイデルベルク大学構内、京大のオフィスが入る校舎

www.britishcouncil.jp/programmes/higher-education/university-industry-partnership/renkei

RENKEI レンケイ 日英産学連携プログラム



Japan-UK Research and Education Network for Knowledge Economy Initiatives

2012年、日英の研究型大学が、経済と社会との連携体制をより強化させることを目指し設立。共同研究、知識移転、人材育成の分野で、産業界との連携強化を図り、未来の社会のリーダー、イノベーターとされる高度な人材を輩出する仕組みをつくることを目的とし、さまざまなワーキンググループを展開。

日英メンバー 12大学

京都大学、大阪大学、九州大学、東北大学、名古屋大学、立命館大学、サウサンプトン大学、ニューカッスル大学、ブリストル大学、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)、リーズ大学、リバプール大学

参加プログラム等

研究者対象

ワークショップ、研究シンポジウム

学生対象

日英両国で開催される、スプリング、サマー、ウインタースクール他
2013年にRENKEIの初のプロジェクトとして、京都大学、ブリストル大学主催により開催した、RENKEI Researcher Development School in Bristol and Kyoto 2013は、英国における若手研究者育成に対する顕彰としては最も評価の高い、Times Higher Education Outstanding Support for Early Career Researchers賞のファイナリストに選考された。2015年夏には、「ルネサンス・アントレプレナーシップ」をテーマに、UCLでワークショップが開催された。



ウインタースクールでのディスカッション(左)
ロンドンでの授賞式で紹介される京都大学でのプログラムの一部(右)

世界の大学との連携

京都大学の海外拠点、交流協定、交流協定による研究者交流、海外の大学との共催シンポジウム等についての情報はこちらでご案内しています。

Kyoto University: Global Engagement
www.oc.kyoto-u.ac.jp

編集・発行 京都大学 国際交流課
606-8501 京都市左京区吉田本町
T: 075-753-2010
E: ipromo[at]mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
W: www.oc.kyoto-u.ac.jp/network

2016年4月

研究者、大学院生、学部生のみなさんへ

大学間国際ネットワーク

による国際プログラムへの参加支援のご案内

2016-2017



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

本学「WINDOW構想」の一環として、大学間国際ネットワーク事業への参加者募集・渡航支援をしています。

世界各地で研究シンポジウムや学生プログラムなどが開催され、京都大学からも毎年多くの研究者や学生が参加しています。特に若手研究者や学生の参加を促進するために、各主催大学が財政支援をしているプログラムもあります。国際交流課では、京都大学のみならずの国際的ネットワークづくりや研究の発展につながるようお手伝いしていきます。興味のある参加募集があった際にはぜひご応募ください。

ホームページ等にイベント紹介・参加募集案内、渡航費等支援情報を掲載しています。

www.oc.kyoto-u.ac.jp/network

参加できるプログラムとメリット

世界を代表する加盟大学間での交流が学生レベル、研究者レベル、教職員レベル、研究科長レベル、学長レベルの各層で行われており、共同研究の促進をはじめ、学生が研究者として世界へ飛び立つ機会ともなっています。

<p>研究者、院生対象</p> <p>リサーチシンポジウム、ワークショップ</p> <p>バックグラウンドの異なる研究者が同一課題の解決に向け結集、分野を超えた最先端の情報収集とネットワークづくり、世界へ向けて研究成果を発表する場</p>	<p>学部生、院生対象</p> <p>サマーキャンプ、学生会議、スピーチコンテスト</p> <p>世界トップレベルの学生との共同生活、テーマに基づく討論や文化交流を行う特に人気の高いプログラム、海外留学へのきっかけづくり、留学後のステップアップ、国際対応力強化、ネットワークづくり</p>
--	---

www.aearu.org

AEARU アイール：東アジア研究型大学協会

The Association of East Asian Research Universities

1996年発足。東アジア5地域(中国、香港、台湾、韓国、日本)の18の研究型大学が加盟する国際大学連合。教育目標および学術研究・開発において共通の関心を持つ研究型大学を結集し、研究者・学生の交流、共同研究プロジェクトの推進、ワークショップの開催など、相互の関心に基づく協力をを行うことを目的としている。

京都大学は2004年から8年間理事、2008年から2年間議長および事務局を務めた。

加盟18大学

復旦大学、南京大学、北京大学、清華大学(北京)、中国科学技術大学、香港科技大学、国立台湾大学、清華大学(新竹)、韓国科学技術院、浦項工科大学、ソウル大学、延世大学、京都大学、大阪大学、東北大学、東京工業大学、東京大学、筑波大学

参加プログラム等

研究者対象

Energy and Environmental Workshop
Young Researchers International Conference

学生対象

Student Physical Competition
Student Summer Camp

サマーキャンプは夏季に一週間程度、AEARU加盟大学により主催される学生交流プログラム。

参加者の声 農学部 犬飼 亜実

参加者たちの意識の高さや英語のレベルの高さ、彼らと話した内容が1番刺激になりました。近隣国の同世代の学生が今どんな考えを持っているのか聞けて、中国に対する見方も変わり、とてもいい経験になりました。



サマーキャンプ2015(中国)

www.aunsec.org

ASEAN+3UNet アセアン プラス スリー ユーネット

AUN (ASEAN University Network), ASEAN+3 UNet (ASEAN+3 University Network)

AUNは、1992年にASEANサミットで提案され1995年に発足した国際大学連合。世界各地域と学生交流、研究者交流や共同研究を実施し、地域内の人材育成の開発に取り組んでいる(ASEAN加盟国30大学加盟)。本学とAUNは2009年に学術交流協定を締結し、協力して活動を展開している。ASEAN+3 UNet は、AUNを核として日本、中国、韓国の3カ国の10大学を加えたネットワークで、本学を含む36大学が加盟。

参加プログラム等

運営・研究者

ASEAN+3 Rectors' Conference
ASEAN Education Summit in Celebration of the 20th AUN Anniversary

学生対象


AUN and ASEAN+3 Educational Forum and Young Speakers' Contest (学部生)



学生フォーラム&スピーチコンテスト(マレーシア国民大学)


参加者の声 経済学部 大矢 隆紀

スピーチコンテストやフォーラムはもちろん、それ以外の時間でも各国の学生と有意義な交流ができ、本当に素晴らしい経験になりました。プログラムを通して得た一番大きな教訓は、国際舞台での経験値の重要性です。

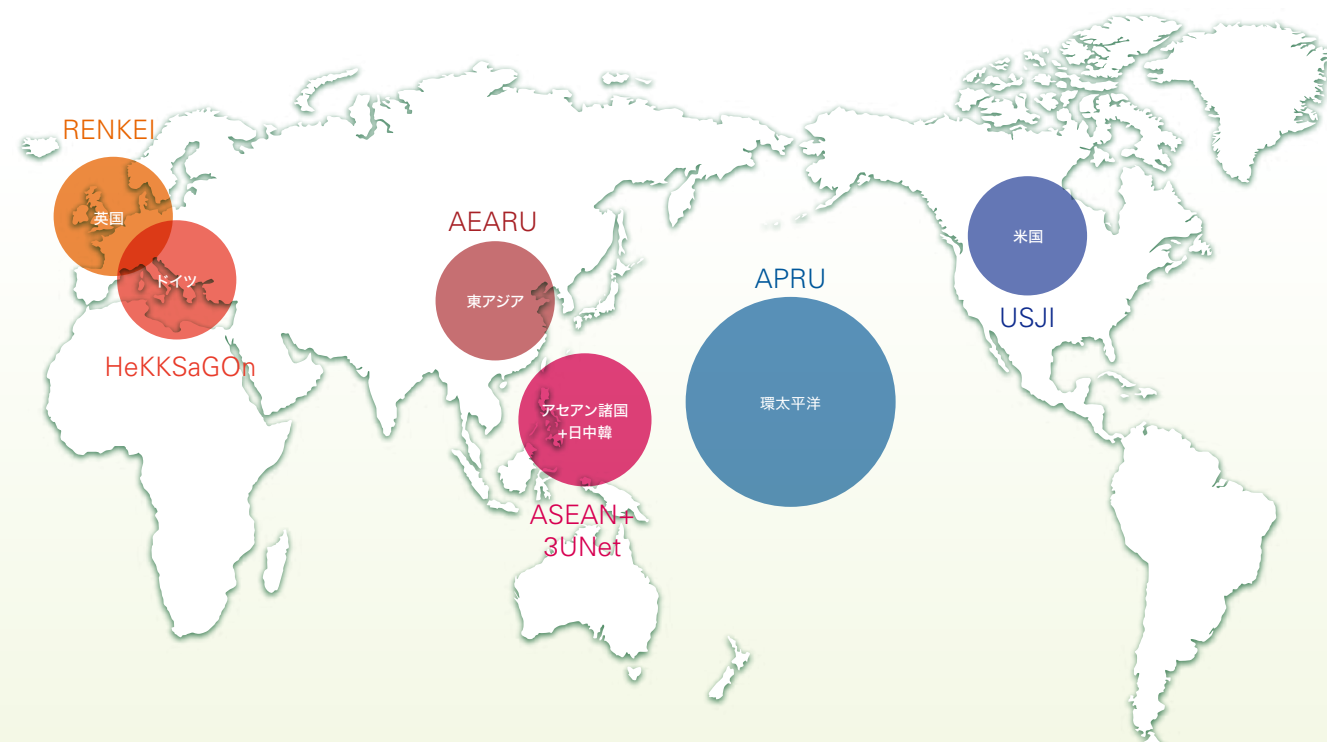


参加者の声 経済学部 佐藤 隆太郎

非常に濃密な時間を過ごし、沢山刺激を受けてきました。開催大学の学生がパティとして各国代表の生活をサポートしてくれ、楽しい時間も過ごせました。



Educational ForumとYoung Speakers' Contestは6日間にわたるプログラムで、テーマは"Developing ASEAN+3 Economic Integrated Community: Issues on Gender Equality, Minority Groups, and Persons with Disabilities"と設定されていた。



www.us-jpri.org

USJI ユー エス ジェイ アイ：日米研究インスティテュート

U.S.-Japan Research Institute

2009年、日本の大学が連携して運営する米国NPO法人としてワシントンDCに設立。学術基盤をもとに政策提言型の研究を行い、セミナー等で戦略的に情報発信する最先端研究拠点として、「研究活動」「人材育成」「コミュニティ形成」の各種プログラムを実施している。

連携運営メンバー 9大学

京都大学、九州大学、慶應義塾大学、上智大学、筑波大学、東京大学、同志社大学、立命館大学、早稲田大学



公開シンポジウム(京都)

U.S. Japan Research Institute

USJI

参加プログラム等

研究者


ワシントン DC で年2回の研究セミナーイベント (USJI Week)
日本国内での国際シンポジウム
USJI Voice (政策提言) 発信

学生対象

米国での学生研修プログラムへの派遣(CSPC, TOMODACHI 他)
CSPC(The Center for the Study of the Presidency and Congress)のフェロープログラムは、年に2回・各回一週間程度、米国のワシントンD.C.で、現地のインターナショナルフェローとともに大統領制度、政策プロセス、メディアとの関わり等を研究する。例年は4月ごろ学内で募集がある。

参加者の声 総合人間学部 金子 世玲那

CSPCは国際的な場や国で役割を果たすことを志す様々な国の優秀な学生と議論を交わす機会を与えてくれました。自分の未熟さを痛感すると同時に政治や政策と学問についてさらに見識を深めたいと強く思いました。



CSPCプログラムでInternational Fellowと(ワシントンDC)